

## 標準学力調査の分析と具体的な手立て【9年生】

### 【国語】

	教科全体	問題の内容別正答率					
		聞き取り	文学的文章の読解	説明的文章の読解	表現	語句・文法	漢字の読み書き
期待正答率	55.8	83.5	67.6	45.1	43.5	19.1	74.4
校内平均正答率	57.7	84.1	66.7	43.8	45.6	21.1	76.9
校内平均正答率 －期待正答率	1.9	0.6	△1.1	△1.3	2.1	2.0	2.5
平成21年度 校内平均正答率－期待正答率	△3.6	<div data-bbox="985 622 2060 1388" data-label="Text" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【具体的な手立て】</b>                      入試漢字ドリルを用い漢字小テストをこまめに実施し、漢字の練習を日常的にさせ、入試に出る漢字の徹底的な習得を図る。                      毎時間音読を行わせることにより、読み書き・語彙・文法の基礎力をさらに高める。またこまめに辞書を引く習慣をつけさせ、文章を自主的に的確に読み解いていく力を養う。                      一学期に7, 8年時の文法の復習を行い、習得率を高める。また、ステップの時間に、一学期には聞くテスト・二学期には古文の演習を行うことで、授業を補強し力をつけさせる。</p> <p><b>【説明的文章の読解力をつけるために】</b> 時間を制限した中である程度の分量の文章を読み通し、内容をつかみ自分の考えを持つ練習をさせ、実践力をつけさせる。また、段落相互の関係・指示語の内容・接続詞の性質・難語句の言い換えなど細かな指導をていねいに行い、長文読解力を養う。</p> <p><b>【文学的文章の読解力をつけるために】</b> 文学的文章や詩・俳句・古典では、動作化や劇化を試み、生徒の興味、関心をひきだしつつ指導する。</p> </div>					
平成20年度 校内平均正答率－期待正答率	0.6						

### 【結果の分析】

全体としては、期待正答率をやや上回っている。評定分布は大変なめらかな分布であり、全国平均よりも4段階の生徒が多く2段階の生徒が少ないことがわかる。ここから、学年全体としての7, 8年の学習内容の習得度は高いと考えられる。

領域別に見ると、表現・語句、文法・漢字の読み書きは期待正答率を上回っているが、文学的文章及び説明的文章の読解は、正答率をやや下回っている。

## 標準学力調査の分析と具体的な手立て【9年生】

### 【社会】

		問題の内容別正答率									
	教科全体	世界の国々の調査	資源・産業・自然環境	人口・生活・文化	結びつく世界と日本	江戸幕府の成立と鎖国	産業の発達と幕府政治	欧米の進出と日本の開国	明治維新と近代産業	二度の世界大戦と日本	現代の日本と世界
期待正答率	45.8	46.0	42.8	68.2	57.6	47.4	47.2	53.9	31.6	50.6	29.5
校内平均正答率	51.9	52.3	44.8	70.9	61.6	54.4	46.9	53.7	35.2	52.6	43.4
校内平均正答率 －期待正答率	6.1	6.3	2.0	1.3	4.0	7.0	▲0.3	▲0.2	3.6	2.0	13.9
平成21年度 校内平均正答率－期待正答率	▲11.3										
平成20年度 校内平均正答率－期待正答率	▲7.5										

### 【具体的な手立て】

8年生から続けている、昼のステップアップⅠの学習を利用して、年間を通して7・8年生で履修した地理的分野、歴史的分野の総復習を行い、基礎的なことを繰り返し定着させる。  
 定期考査に地理・歴史の学習内容を約30点分加え、7・8年生の基礎的な内容の確認ができるようにする。  
 ○夏休みのサマースクールを利用して、習熟度別の学習指導を行い、3年間社会科の総復習を行う。  
 夏休みの宿題で、副教材の「3年間の総まとめ」を使った総復習を行わせる。

### 【結果の分析】

社会科全体として、期待正答率を上回っている。領域別には、10領域中8領域で期待正答率を上回っている。  
 地理的分野では、世界の国々の調査の比較正答率が高かった。  
 歴史的分野では、産業の発達と幕府政治と、欧米の進出の2領域が期待正答率をやや下回った。  
 現代の日本と世界の期待正答比率が高かった。  
 観点別正答率では、資料活用の技能・表現が期待正答率よりやや下回っている。

## 標準学力調査の分析と具体的な手立て【9年生】

### 【数学】

	問題の内容別正答率						
	教科全体	式の計算	連立方程式	1次関数	平行と合同	三角形・四角形・円	確率
期待正答率	35.7	32.4	49.0	16.6	38.3	31.5	49.0
校内平均正答率	40.8	40.7	58.0	16.7	43.3	33.8	50.7
校内平均正答率 －期待正答率	5.1	8.3	9.0	0.1	5.0	2.3	1.7
平成21年度 校内平均正答率－期待正答率	2.2						
平成20年度 校内平均正答率－期待正答率	2.6						

### 【具体的な手立て】

- 式の計算、方程式、角度を求める問題、9年の学習範囲である展開・因数分解、平方根のような基本的な問題に関しては、日々の授業の最初の5分間を使って、繰り返し復習し確実に定着させていく。
- 連立方程式は、しばらく学習しないと忘れてしまう生徒も多いので、定期考査に必ず出題することとし、定期考査前に定期的に復習させていく。
- 関数の分野は、生徒にとって一番理解しづらい領域。サマースクールで復習の課題を準備する。2学期に行う単元「 $y = ax^2$ 」の学習の前に比例・反比例とあわせて1次関数の復習を授業内で行う。
- 図形の学習は、間隔が開いてしまうと忘れてしまうことが多いので、サマースクールで夏休みに確認し証明の復習をしていく。
- 確率に関しては、日々の5分間の繰り返し学習プリントの中にも取り入れ、基本を定着させると共に、簡単な応用問題も取り入れ力をつけさせる。

### 【結果の分析】

- 全体としては、全ての項目において期待正答率を上回っており、7・8年生の学習内容は概ね定着していると言える。中でも計算や方程式の部分の正答率は高かった。
- 式の計算においては、基本的な式の計算はできているが、4つの連続する奇数の和が常に8の倍数になるということを答える問題において誤答が目立った。数学的見方考え方を身に付けることが必要である。
- 連立方程式は概ね定着しており、全ての問題において期待正答率を上回っていた。
- 1次関数では、やや基本が定着していない。もう一度確認する必要がある。
- 平行と合同では、ひし形の性質や等積変形に関する知識がやや不十分であった。

## 標準学力調査の分析と具体的な手立て【9年生】

### 【理科】

	教科全体	問題の内容別正答率					
		動物の生活と種類	天気とその変化	電流	化学変化と原子・分子		
期待正答率	51.3	59.0	54.4	45.9	50.8		
校内平均正答率	51.3	56.3	58.3	41.9	48.6		
校内平均正答率－期待正答率	0.0	▲2.7	3.9	▲4.0	▲2.6		
平成21年度 校内平均正答率－期待正答率	▲8.9						
平成20年度 校内平均正答率－期待正答率	▲4.2						

### 【具体的な手立て】

- ・ステップアップ学習Ⅰでは、2学期に電流の計算問題に取り組む。小テストを実施し、計算問題を解く力を養っていききたい。
- ・サマースクールで補習を行う。内容は、ワークの練習問題を使い、単元ごとの総復習を行う。基礎・定着・発展の各コースを設ける。
- ・必修授業の中で入試問題の基礎問題に取り組んでいる。長期的な計画で、基礎学力を身に付けていきたい。
- ・定期考査に20%程度、7・8年の復習単元を加えて、取り組みの意欲を高めていく。
- ・単元「天気とその変化」の定着度が高いので、2学期中に授業内で復習の時間を設定し、さらに達成度をあげて、得意領域とさせたい。

### 【結果の分析】

- ・教科全体としては、全国平均正答率と同等である。
- ・全国平均と校内平均の差が一番大きいのは、電流の領域で、計算問題に対する本校生徒の習熟不足が原因であると思われる。
- ・天気とその変化の領域では、全国平均を上回っている。生徒の興味関心の強さが好結果に結びついていると考えられる。
- ・自然事象への関心・意欲・態度、観察・実験の技能・表現、自然現象についての知識・理解の3観点で、B評価の割合が、全国平均を上回っているが、科学的な思考では、全国平均をやや下回っていて、本校の課題を表している。

## 標準学力調査の分析と具体的な手立て【9年生】

### 【英語科】

	教科全体	問題の内容別正答率								
		リスニング	過去の文	未来の文	助動詞を使う文	動名詞不定詞	接続詞を使う文	比較を表す文	文型	長文読解
期待正答率	51.0	90.8	50.0	44.1	40.1	37.6	31.2	52.5	19.4	59.1
校内平均正答率	53.3	91.9	52.3	44.8	42.5	41.5	26.6	54.0	25.0	62.5
校内平均正答率 －期待正答率	2.3	1.1	2.3	0.7	2.4	3.9	▲4.6	1.5	5.6	3.4
平成21年度 校内平均正答率－期待正答率	4.6									

### 【具体的な手立て】

具体的な手立てとして、以下の4技能＋語彙の面から考える。

- 聞く・・・概要を捉えることに問題はない。真のコミュニケーションの目的である「話者の意図や結論等の理解」ができるようCALL教材を活用して指導中である。
- 話す・・・既習事項を運用できる手立てをし、英検2級・準2級・3級面接対策を含んだ授業作りをしている。
- 読む・・・多読指導が徐々に進行中である。英字新聞や英文日記を普段から読み慣れることを念頭において、読む機会を増やしている。
- 書く・・・Writing Notebookを継続中である。また、多読指導から書くことに移行できるように指導していく。
- 語彙・・・既習の単語集の復習や語彙ノートを作成させて、語彙力の増強を図っていく。

### 【結果の分析】

- 期待正答率よりも超えたが、昨年度立てた目標には遠く及ばぬものになった。
- 長文読解においても、もう少し上回っても良いと考えていた。
- 文法演習は特にしていないため、リスニングと長文読解以外の結果としては、この程度であろう。
- 接続詞を使う文のみで、下回っているために語彙ノートの指導を通して改善を図っていきたい。